

謹賀新年



磐陽商業新報

月二回一日十五日發行
取扱主事 西島藤平町五九
兼編輯及 鈴木禎亮
印刷人
印刷所 西島藤平町一丁目二九
株式會社平活版所
發行所 磐陽商業新報社

謹賀新年

植田水力電気株式會社

迎新の辭

主事 鈴木禎亮

豊葦原の瑞穂の國は まばゆき旭日輝々として東海を離れ
地軸一轉 一陽來復して歳華茲に革まり、森羅萬象悉く新なり。
正にこれ昭和最初の新春、豈年頭の一大快事ならずや 吾人微臣等
先づ謹で紫雲瑞陽輝き渡る大内山の竹の御園生を伏し拜み、
畏くも聖壽の天壤無窮に、いや榮えにさかえんことを祈り
畢つて吾人此の難有き聖代の新年に際會して、その徳澤深き
恩恵に濕ふ幸福を欣び、又一面熟考静思して將來をトさんか
前途洋々恰も春海の如くにして、而して亦幾多希望光明のかが
やきは、吾人の胸間に充ち満ちて、精神おのづから欣快躍
如の感なくんばならず。さはいへ、吾人の事業は常に江湖各
位の眷顧と援助に俟つべきもの多しとするを以て、猶一層の
後援鞭撻を希ふと共に、讀者諸彦の健康と祝福とを祈りて止
まぬものなり。
更に思ふ本紙はこれ、昨年の暮、呱呱の産聲を揚げて、會員
諸士の取あげに浴し、爾來肥だち而かも健全にして哺乳充分
今や襁褓中にありて斯の芳歳を迎へ、齡正に一歳を加ふ、之
を人生に譬ふれば、本紙は襁褓の乳房を離れて、健全なる歩
行發達の成長を見るまでには、此間注意周到の養育に俟たざ
るべからず、然らば養育の任務實に大にして且つ細心の配慮
を要す、細心の配慮を倚頼する者は誰れに依つてか之を依頼
せん、他にあらず即ち本紙の會員諸士と江湖讀者諸彦の協力
一致に期待するの外毫も途なし、諸彦乞ふ、此点に深甚なる
考慮と同情とを吝なるなからむことを。
終りに 天皇、皇后兩陛下の萬歳を三唱し奉りて之を迎新の
辭となす。

石城郡大浦村長

渡邊 金治

鐵道省御指定 平町公園入口

美術寫眞 三光館 薄葉 忠惠

鈴木辰三郎

神谷村

佐藤久三郎

石城郡大浦村

銘酒 日の出 木村 榮一

諸橋久太郎

山崎與三郎

中野 甲藏

金成 金三

佐藤松之助

鷺 清吉



磬城銀行
頭取 草野 順平
支配人 草野 順平
平銀行
頭取 山崎 與三郎
支配人 神谷 辰五郎
磬越銀行
頭取 中野 甲藏
支配人 瀧澤 俊平
磬城實業銀行
頭取 馬目 太平
支配人 鈴木 辰三郎
磬東銀行
頭取 金 成通
支配人 金 成三
四倉銀行
頭取 新妻 盛
第七十七銀行平支店
第一百七銀行平支店
福島農工銀行平支店
常磐銀行 植田出張所

謹賀新年

衆議院議員

比佐 昌平

元衆議院議員

安島 重三郎

高岡 唯一郎

縣會議員 (イロハ順)

若松 美三

野崎 滿藏

山崎 吉平

古川 傳一

鷺 清昇

鈴木 辰三郎

元縣會議員 (イロハ順)

井上 茂作

小野 晋平

大平 陸四郎

草野 順平

木村 清治

分團長 薄葉 孝至

平窪青年 高萩 盛男

愛友會長 吉田 秀一

全愛友會 福田 長一郎

願全愛友會 大須賀 雄一

外愛友會一同

喪中に付き

年賀の禮を缺き申候

白井 博之

白井 一郎

平料理屋組合

平藝妓屋組合

ヤマト醬油株式會社

警城中町 電七四一番

社長 白井 一郎

常務取締役 遠藤 俊一郎

警城建物株式會社

井上 貞次郎

石城中町五電五一八

營業品目
各種自動車
各種部品
各種タイヤ
各種オイル
各種修理
各種中袋

警城國平町驛前 電話六二二番

平サバイブス
ステーション

大内 民惠

小田 吉次

中野 浩忠

大森 勇

三森 虎雄

猪狩 清

警陽商業新報社

主事 鈴木 禎亮

記者 松本 晃一

外社員 一員

平町會議員

遠藤 義林

萩原 義雄

大森 勇

松崎 菊三

諸橋 國三

吉田 定太

佐藤 岩次

荒川 淺次

井上 茂吉

星野 清

阿部 唯次

大谷 久藏

丹野 榮三

柏原 貞吾

鷹崎 貞一

渡邊 貫

會川 卯三

加藤 芳雄

阿部 政右衛門

吉田 五平

阿部 太

岩崎 重雄

野崎 滿藏

森本 盛

櫻井 清

佐々木 龍若

青沼 鋒太

花澤 久太郎

永山 義太郎

植田水力電氣株式會社